

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況

研究分担者：青木 正志¹⁾

研究協力者：加藤 昌昭¹⁾²⁾

所属： 1)東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態講座 神経内科

2)総合南東北病院 神経内科

研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

【方法】2015年度（平成26年度）および2014年度（平成27年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

【結果】プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2013年11月から2015年10月現在までの2年間で70例であった。内訳としては、青森県15例、秋田県6例、岩手県12例、宮城県14例、山形県6例、福島県17例であった。そのうち14例は他の疾患が確定しプリオン病は否定された。それ以外がプリオン病（疑いを含む）の診断であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の例は180Val/116Ile変異を伴う6例であった。本年度剖検数は0例であった。

【結語】東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考えられる。

A. 研究目的

東北地方におけるプリオン病の疫学、症状を調査、解析する。

B. 研究方法

2014年度（平成26年度）から2015年度（平成27年度）における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。プリオン病が

否定的な症例については電話にて調査を行い、プリオン病が疑わしい症例に関して、宮城県の症例については実地調査を行い、その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

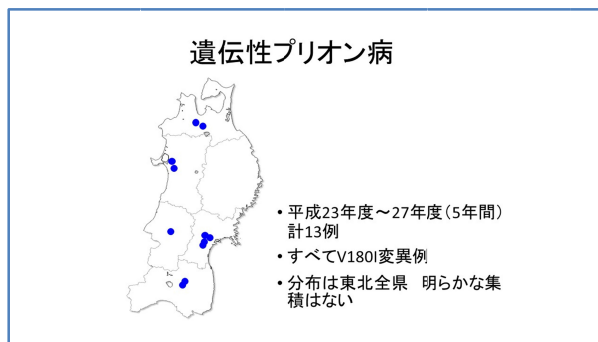
(倫理面への配慮)

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスに協

力いただくことに関して書面にて同意を取得した。

C. 研究結果

プリオン病疑いとして調査依頼を受けた症例は、2013年11月から2015年10月現在までの2年間で70例であった。内訳としては、青森県15例、秋田県6例、岩手県12例、宮城県14例、山形県6例、福島県17例であった。そのうち14例は他の疾患が確定しプリオン病は否定された。それ以外がプリオン病（疑いを含む）の診断であった。遺伝子変異を伴う例、家族性のプリオン病の例は180Val/116Ile変異を伴う6例であった。本年度剖検数は0例であった。



F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表（2014/4/1～2015/3/31 発表）

1. 論文発表

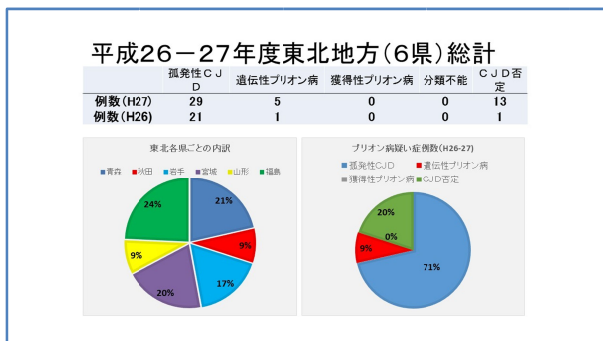
なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし



E. 結論

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。

プリオン病発症率は東北6県人口約1000万人とすると、年間発症率は約0.25人/10万人/年であり、以前（平成24年-25年；0.13人/10万人/年）よりもこの2年間では増加傾向を示した。

遺伝性プリオン病はすべてがV180I変異例であり、東北全県から発症を認めた。明らかな地域集積は認められなかった。

今後も継続的に調査を行うことが必要であると考える。